

PROGRAM 1

■ **1** ■ **城摩里菜**（ピアノ）

①組曲「宇宙」より“金星のヴィーナス”
作曲：城摩里菜

②ピアノ・ソナタ 第20番 Op.49-2 第1楽章 ト長調
作曲：ベートーヴェン

■ **2** ■ **大羽洋子**（ピアノ）

①リベルタンゴ 作曲：アストル・ピアソラ

②愛の夢 第3番「おお、愛しうる限り愛せ」
作曲：F・リスト

■ **3** ■ **本田歌音**（フルート） 伴奏：本田 世志子

メロディー 作曲：E・ノブロ

■ **4** ■ **長田千佳**（ピアノ）

絵画的練習曲《音の絵》より 作品 33-2,3 作品 39-1
作曲：ラフマニノフ

■ **5** ■ **中村友希乃**（ヴァイオリン） 伴奏：富岡 順子

①ラ・カンパネラ
作曲：パガニーニ（クライスラー編曲）

②美しきロスマリン 作品 55-4 作曲：クライスラー

■ **6** ■ **伊集院 紀子**（ピアノ）

①ソナタ 第62番 第1楽章

作曲：ハイドン

②6つの演奏会用練習曲 Op.28 No.6 カプリッチョ

作曲：ドホナーニ

PROGRAM 2

■ **1** ■ **本田歌音**（フルート） 伴奏：本田 世志子

アヴェ・マリア 作曲：グノー

■ **2** ■ **城摩里菜**（ピアノ）

ノクターン 嬰ハ短調 遺作 作曲：ショパン

■ **3** ■ **黒田小百合**（ヴァイオリン） 伴奏：富岡 順子

カルメン幻想曲 作曲：ビゼー（ワックスマン編曲）

■ **4** ■ **長田千佳**（ピアノ）

幻想曲集 作品 116 より（抜粋） 作曲：ブラームス

***** 休憩 *****

★ **アヴェ・マリア**

《グノーのアヴェ・マリア（ラテン語：Ave Maria）》とは、1859年にシャルル・グノーがヨハン・セバスチャン・バッハの《平均律クラヴィーア曲集 第1巻》の「前奏曲 第1番 ハ長調」を伴奏に、ラテン語の聖句「アヴェ・マリア」を歌詞に用いて完成させた声楽曲のことである。19世紀フランスの歌曲では、しばしば演奏されており、録音される機会も多い。

★ **ノクターン 嬰ハ短調 遺作**

1830年にウィーンで完成され、ショパンの姉ルドヴィカに送られた作品。慣例的にノクターンの1つに数えられるが、恐らくショパン自身はノクターンと命名しなかったと推測されている。そのため、速度表示の「Lento con gran espressione」がそのままタイトルとして使われることもある。死後出版された為、細かな部分の異なる楽譜が何種類かある。

★ **カルメン幻想曲**

ビゼー作曲の歌劇「カルメン」をもとに、ドイツ出身でアメリカで活躍した、フランツ・ワックスマンが、1947年の映画『ユーモレスク』のために作曲し、ヴァイオリンの名手ハイフェッツに献げられた。<闘牛士の行進><ハバネラ><アラゴネーズ><セグディーリャ><ジプシーの踊り>など名旋律を集め、ヴァイオリンの華麗な技巧がたっぷりと盛り込まれている。

★ **幻想曲集 作品 116 より（抜粋）**

3つの奇想曲と、4つの間奏曲からなる。奇想曲は、情熱的な性格をもち、間奏曲は夢想的な性格をもっている。1892年に作曲された。多くが三部形式の簡素でわかりやすい形でかかれている。しかしながら、その作曲技巧はより洗練され、精巧なものになっている。靈感をたたえつつも、晩年の孤独感、諦観を感じさせる作品が多い。

★ **ワルツ・スケルツォ 作品 34**

ヴァイオリンとオーケストラのために書かれたこの曲は、チャイコフスキーのバレエ音楽の中に出てくるワルツの特徴をよく表している。最初は同時期に作曲されたヴァイオリン協奏曲の第2楽章にするつもりで書かれた。

★ **ノクターン 第18番ハ長調「正午のロンド」**

アイルランドの作曲家、ピアニストであるフィールドは、ロマン派ピアノ演奏技術の重要な一派の創始者。作品の多くの部分は演奏時のインスピレーション（即興）にゆだねたと考えられている。1812年に「ノクターン」という名を使って第1番が発表され、第18番はノクターンとしては異質の作品だが「正午のロンド」という副題もある。

★ **ヴァイオリン協奏曲 イ短調 作品 82 第1楽章**

この作品は、ロシアのブラームスとも評されるグラズノフの創作力が頂点にあった39歳（1904年）の時に作曲され、レオポルト・アウアーに献呈・初演された。20世紀初頭を代表するヴァイオリン協奏曲として広く演奏され続けている名曲。全体は約20分の切れ目のない音楽からなるが、今回は変則的な3楽章制として第1楽章（Moderato）を演奏する。とても自由なソナタ形式で、美しくロマンティックな旋律とロシア的な叙情、華麗かつ繊細なヴァイオリン技巧が聞きどころ。

★ **スケルツォと行進曲**

当初この曲には「Wilde Jagd（死霊の群れ）」のタイトルがつけられていたそうだ。その名の通り、スケルツォは悪魔的な雰囲気とテクニクで構成されており、この形は後半の行進曲部分にも再現され、曲全体を支配する要素となっている。後半の行進曲は一転して長調ながらも、遠くから死霊の軍隊が群れをなして少しずつ近づいてくるかのような圧迫感、不気味さを持続しており、スケルツォの再現の後は、鬼気迫る荒々しさの中で幕を閉じる。この曲は難易度が高いせいか、演奏を成功させる事ができたのは当時リストの弟子であったハンス・フォン・ビューローのみだったと言われている。そのせいか現在も演奏される機会は多くないが、数多いリストの作品の中でも演奏効果の高い名曲と言える。

曲目解説

★ **組曲「宇宙」より“金星のヴィーナス”**

2012年1月に完成、作曲者によって初演された作品。愛と美の女神“ヴィーナス”を表現する神秘的な第1曲。気むずかしくおかしな風体の土星人から手紙が来て、ロケットに乗って会いに行くという物語風の第2曲。ピアノの音域を最大限に生かした第3曲。本日はその中より第1曲「金星のヴィーナス」を演奏。

★ **ピアノ・ソナタ 第20番 Op.49-2 第1楽章 ト長調**

Leichte Sonate」と命名されているソナタ。第20番となっているが、作曲されたのは1795年-1796年(25才)、ソナタ第3番とほぼ同じ年代。ボンから音楽都市ウィーンに出て、大作曲家に師事し演奏会も成功し聴覚障害も起きていない。そんな若さ、明るさと力強さがみなぎっている。

★ **リベルタンゴ**

ピアソラの名曲「リベルタンゴ」をピアノソロで演奏する。

★ **愛の夢 第3番「おお、愛しうる限り愛せ」**

1845年に作曲され、歌詞の内容は「おお、愛よ、愛、君が愛する事が出来る間、いつまでも愛するが良い。いつも楽しくさせて決して悲しくさせてはならない」というもの。3つのノクターンとして全3曲から成り、この第3番はピアニストのレパートリーとしても名曲中の名曲。

★ **メロディー**

日本ではよく演奏されて『メロディー』と名付けられているが、つい最近までこの曲・作者については謎とされてきた。しかしようやく近年、この曲が、ノブロが「Andantino and Finale」として作曲した曲の前半部分（「Andantino」の部分）だということが判明した。オリジナルの楽譜も見つかり、さらにノブロのフルネームと没年が1965年ということも判明。いろんなことが不明とされながら、人々に愛され演奏されてきたのは、わずか72小節の短い曲の中に、美しい旋律と憂い、情熱を感じることの出来る『フルートの小品曲』としては他に類をみない完成度だからだと思われる。

★ **絵画的練習曲《音の絵》より 作品 33-2,3 作品 39-1**

別々の時期に発表された、作品33と作品39の2巻から成る。どちらも単なる超絶技巧な練習曲ではなく、音による絵画的表現も意図されている。「絵画的な小品集」として構想されたが、ラフマニノフは各曲が示唆する情景を公開せず、「誰でも、音楽から連想したものを自由に描き出せばよい」と述べている。

★ **ラ・カンパネラ**

パガニーニのヴァイオリン協奏曲 第2番、第3楽章のロンド「ラ・カンパネラ」をクライスラーがヴァイオリンとピアノのための独奏曲として編曲した。有名な主題はパガニーニのオリジナルではなく、古くから伝わるイタリアの旋律で、カンパネラはイタリア語で「鐘」を意味する。演奏するのは技術的に難しい部分もあるが、弾いているうちにとても楽しく感じられる素敵な曲。

★ **美しきロスマリン 作品 55-4**

クライスラーは自身もヴァイオリニストで自分の演奏会で演奏するための小品をたくさん作曲した。その中でもこの曲は「愛の喜び」「愛の悲しみ」とならぶ有名な曲。「ロスマリン」は花の名前で、愛らしさと貞節の象徴、また可愛らしい女性の愛称としての意味もある。魅力的な親しみやすいワルツ。

★ **ソナタ 第62番 第1楽章**

ハイドンのピアノ・ソナタの中で最後期に書かれた作品。これまでのハイドンの作品は、かわいらしく可憐な印象のものが多いが、この曲は華やかさ、音のボリューム、構成ともに、充実した内容になっている。第1楽章は目まぐるしく変わる強弱やリズムが特徴。

★ **6つの演奏会用練習曲 Op.28 No.6 カプリッチョ**

リストと同じハンガリーの作曲家。1960年まで生きた近代の作曲家だが、旋律の分かりやすい作品が多く、技巧、内容ともに充実した作品が多く書かれている。なんといっても代表作のこの練習曲第6番「カプリッチョ」はラフマニノフやゴドフスキーといったピアノの名手達が好んで演奏した、当代随一の超絶技巧曲として知られている。

PROFILE

■城 摩里菜 Marina JYO（ピアノ）

幼少よりピアニストの母（原口摩純）に師事。4才でコンサート出演。5才で名古屋宗次ホール主催公演出演。5才でコンコルソ Music Arte グランプレミオおよび聴衆賞受賞。イタリア世界遺産「Teatro Olimpico」における国際フェスティバルにて日本代表として演奏。テレビ取材、新聞にて高評。6才でオーケストラと2回ピアノ協奏曲を共演（モーツァルトおよびコワロフスキー）。6才で初めて作曲した「摩周湖のほとり」がヤマハJOC 2011 年度作品全国 3200 曲の中から選ばれ（最年少）全国コンサート曲となり、日本著作権協会登録曲となる。現在 8 才。

■大羽 洋子 Yoko OBA（ピアノ）

東京生まれ。埼玉県立大宮光陵高校音楽科を経て桐朋学園大学短期大学部卒業。高校在学中より数々のコンクールにて受賞。日本イタリア協会主催による第 1 回 Musica Arte に於いて金賞・聴衆賞をダブル受賞。20 年に渡るコンクール受賞歴を記念して、1st アルバム～3 つのノクターン～をリリース。新聞・ラジオ・レコード芸術誌等で紹介される。公式ホームページ <http://www.yoko-oba.com>

■本田 歌音 Canon HONDA（フルート）

東京都出身・在住。浦和ルーテル学院初等部 5 年生在学中。10 歳。3 歳からオカリナを、5 歳からフルートの手ほどきを母から受け、現在、ザビーネ・ザイフェルト氏に師事。エンツォ・カロリ、マリオ・カロリ、工藤重紀氏のマスタークラスを受ける。第 2 回、第 3 回コンコルソ Music Arte 小学生の部門においてグランプレミオ受賞。第 13 回日本ジュニア管打楽器コンクール、フルート部門・小学生の部で銀賞（2 位）、第 6 回仙台フルートコンクール・中学生以下の部以最年少で入選。第 21 回日本クラシック音楽コンクールにて、予選・本選を経て全国大会 5 位。2012 年さいたまジュニアソロコンテストにおいて優秀賞受賞。他、国内の数々のコンクールにおいて最年少での受賞・入選を果たしている。2011 年 7 月 (Vicenza 市・日本イタリア協会共催) イタリア世界遺産「Teatro Olimpico」における国際フェスティバル、またヴェネチア音楽院コンサートホールでの特別コンサート、10 月には京都・高台寺（秀吉の妻ねねの寺として有名）での特別演奏会に出演。12 月に初めてのプチリサイトル『カノンのクリスマスコンサート』を開催。2012 年 6 月には東京ベイコート倶楽部ホテルにおいて『カノンのアフタヌーンコンサート』を予定している。

■長田 千佳 Chika NAGATA（ピアノ）

武蔵野音楽大学卒業。イタリア・ペスカーラ音楽院にて A.B. ミケランジェリの高弟であるブルーノ・メッツェーナ氏のもと研鑽し、高等課程のディプロマを取得。現在、20 世紀の音楽のコースで更なる研鑽を積んでいる。スイス・ティチノ・ムジカ国際音楽祭にてソロリサイトをを行う。ペスカーラ交響楽団とバルトークのピアノ協奏曲第 3 番を協演。毎日新聞社・日本イタリア協会主催第 2 回イタリアピアノコンコルソ、フィナリスタ。イタリア大使杯受賞。

■中村 友希乃 Yukino NAKAMURA（ヴァイオリン）

第 16 回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール第 1 位。第 12 回関西弦楽コンクール優秀賞並びに審査員特別賞。第 64 回全日本学生音楽コンクール大阪大会ヴァイオリン部門中学校の部第 2 位。第 64 回全日本学生音楽コンクール全国大会ヴァイオリン部門中学校の部第 3 位・横浜市民賞受賞。日本イタリア協会主催、コンコルソ Music Arte グランプレミオ受賞。2011 年 7 月 (Vicenza 市・日本イタリア協会共催) イタリア世界遺産「Teatro Olimpico」における国際フェスティバル日本代表出演、ヴェネチア音楽院コンサートホール特別コンサート、高台寺特別演奏会に出演。2011 年ドイツ、クロスターシェーンタール国際ヴァイオリンコンクールにて第 1 位とバッハ賞受賞。現在小栗まち絵氏に師事し私立相愛高校音楽科 2 年生に在籍中。

■伊集院 紀子 Noriko IJYUIN（ピアノ）

桐朋学園大学卒。2005 年ジュピター国際音楽コンクール（イタリア）1 位、2010 年日本イタリア協会主催第 2 回コンコルソ Music Arte、ピアノ部門・大学、一般の部グランプレミオ大賞および聴衆賞受賞、2011 年第 2 回山手の丘音楽コンクール（フェリス女学院主催）ピアノ部門・大学、一般の部 1 位受賞など、国内外のコンクールにて多数優勝を果たし、2008 年にはイタリアのトリノ市でリサイトを、2010 年には船橋タワーホールにてモーツァルトのピアノ協奏曲を好演し好評を博した。ソロ活動の他、伴奏者としても好演している。

■黒田 小百合 Sayuri KURODA（ヴァイオリン）

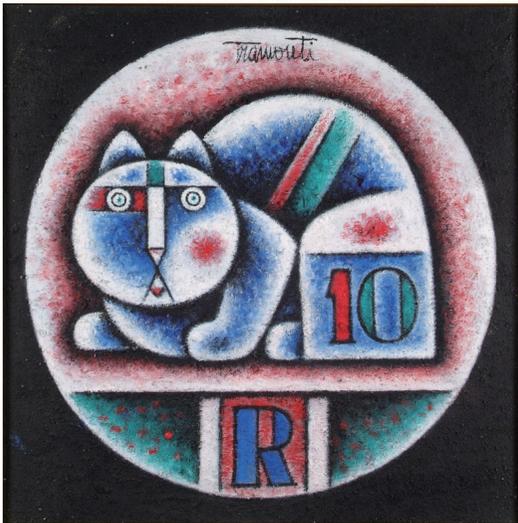
3 才からヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部大阪大会第 3 位。関西弦楽コンクール審査員特別賞など受賞。2009 年「大阪城星空コンサート」、2010 年「大阪クラシック」にて、大植英次指揮、大阪フィルハーモニーと共演。第 3 回コンコルソ Music Arte にてグランプレミオ大賞を受賞し、紀尾井ホールでのゴールデン・ガーラ・コンサートに出演。今夏、イタリア世界遺産 (5 箇所) で開催される (Vicenza 市・日本イタリア協会共催) 国際フェスティバル、および特別演奏会出場予定。現在、大阪教育大学附属天王寺中学校 3 年生。

■伊藤 万桜 Mao ITO（ヴァイオリン）

3 歳よりヴァイオリンを習う。現在、山岡耕祐氏に師事。第 2 回コンコルソ Music Arte 高校弦楽器部門特別賞およびに聴衆賞、第 3 回コンコルソ Music Arte ステッラ部門高校生の部金賞、第 16 回 KOBE 国際音楽コンクール弦楽器 B 部門優秀賞並びに兵庫県芸術文化協会賞、第 7 回日本管弦打楽器ソロ・コンテストグランプリ・クリスタルミューズ賞受賞。第 5 回蓼科音楽コンクール弦楽器高校生部門第 2 位入賞。第 10・11 回大阪国際音楽コンクール弦楽器 H・G・コンチェルトオーデション各部門入選他。第 26 回江戸川区新人演奏会、第 25 回蓼科音楽祭受賞者コンサート、第 28～32 回 AN DIE MUSIK コンサートに出演等。

こどもの日 特別コンサート

今・・・、そして次世代を担う音楽家たち



2012 年 5 月 5 日 
13:45 開場 / 14:00 開演

西宮市大谷記念美術館 [講堂]

兵庫県西宮市中浜町 4-38

Tel.0798-33-0164